

神奈川県震災建築物応急危険度判定士の情報誌（年1回発行）

判定士だより

VOL. 32
2025

特集 令和6年能登半島地震



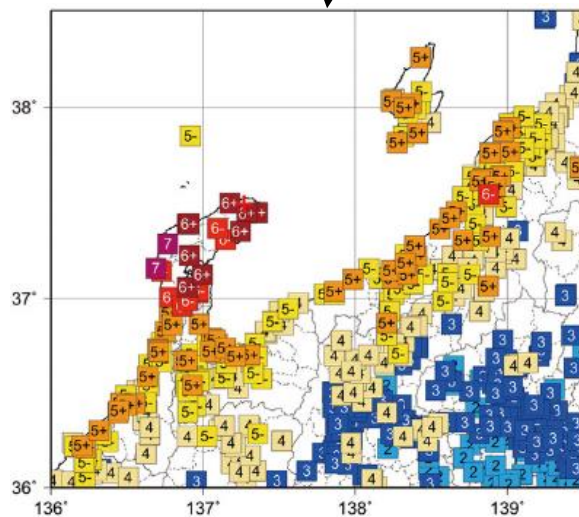
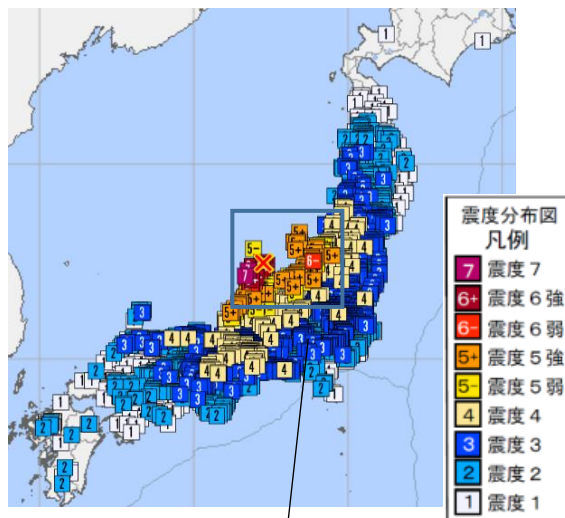
目次

- 特集1 能登半島地震の概要・判定活動の実績について…P1
- 特集2 能登半島地震派遣行政判定士へのインタビュー…P3
- 令和6年度コーディネーターシナリオ演習及び応急危険度判定講習会の報告 …P7
- お知らせ …P8

特集 1 能登半島地震の概要・判定活動の実績について

令和 6 年 1 月 1 日 16 時 06 分に前震(マグニチュード 5.5、最大震度 5 強)、その 4 分後の 16 時 10 分に石川県能登地方を震源とする令和 6 年能登半島地震(マグニチュード 7.6、最大震度 7)の本震が発生し、その後も震度 5 弱以上の強い余震が繰り返し発生しました。石川県輪島市や志賀町で最大震度 7 を観測したほか、北陸地方を中心に北海道から九州地方にかけて震度 6 強から 1 を観測するなど、非常に広範囲で揺れを観測しました。また、北海道から九州地方にかけての日本海沿岸を中心に津波の発生を観測したほか、輪島市では市街地の大規模火災も発生しました。電子基準点「輪島 2」(国土地理院)では、2.0m 程度の南西方向への変動、1.3m 程度の隆起がみられるなど、能登半島を中心に大きな地殻変動も見られ、北西—南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、地殻内で発生した地震でした。

地震により被災した建築物について、その後の余震等による倒壊等から生ずる二次災害を防止し、住民の安全の確保を図ることを目的とした、「応急危険度判定」が被災地で行われました。



地震の概要

発生日時: 令和 6 年(2024 年) 1 月 1 日 16 時 10 分

震源地: 石川県能登地方(北緯 37.5 度、東経 137.3 度)

震源の深さ: 16km(暫定値)

震源の規模(マグニチュード): 7.6(暫定値)

石川県内の各地の震度(震度 5 強以上)

- ◆震度 7: 志賀町、輪島市 ◆震度 6 強: 七尾市、珠洲市、穴水町、能登町
- ◆震度 6 弱: 中能登町 ◆震度 5 強: 金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町

令和 6 年能登半島地震における災害と対応について (国交省 HP より)

被害の状況 (石川県内)

【令和 6 年 12 月 17 日 14 時 00 分現在】

市町名	人的被害(人)					住家被害(棟)					非住家被害(棟)			
	死者	うち災害関連死	行方不明者	負傷者		小計	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	小計	公共建物	その他
				重傷	軽傷									
金沢市					9	9	31	245	12071			12347		187
七尾市	38	33		34	3	75	512	4837	11086			16435	調査中	4096
小松市	1	1		1	1	3	1	77	8383			8461		
輪島市	174	73	2	213	303	692	2300	3927	4290			10517	199	11569
珠洲市	146	49		47	202	395	1748	2083	1747			5578	調査中	6172
加賀市							14	53	4877			4944		
羽咋市	3	2			7	10	61	486	3292			3839	61	473
かほく市							9	246	3018			3273		234
白山市	1	1			2	3			1093			1093		
能美市				1		1	1	13	2846			2860	9	
野々市市					1	1			833			833		
川北町									69			69		
津幡町				2		2	9	83	3368			3460		39
内灘町	4	4		6		10	123	563	2104			2790	29	644
志賀町	17	15		7	97	121	558	2452	4430	6	5	7451	6	3982
宝達志水町							12	78	1752			1842		143
中能登町	1	1		5	1	7	55	902	3270			4227	1	1494
穴水町	38	18		33	225	296	388	1294	1658			3340	調査中	2437
能登町	46	44		29	25	100	254	971	4526			5751	25	3802
計	469	241	2	378	876	1725	6076	18310	74713	6	5	99110	330	35272

令和 6 年能登半島地震による人的・建物被害状況について (石川県 HP より)

■建物等の被災状況 写真提供：一般財団法人 神奈川県建築安全協会



【輪島朝市通り】



【輪島市黒島地区】



【珠州市宝立町】



【建物の傾斜】



【せん断ひび割れ】



【輪島朝市通り 火災現場】

応急危険度判定の活動実績

		実施期間	実施件数	危険(赤)	要注意(黄)	調査済(緑)	判定人数(班数)
石川県	七尾市	令和6年1月4日～令和6年1月9日	1,546	682	444	420	1,916人 (958班)
	輪島市	令和6年1月10日～令和6年1月21日	8,579	4,559	2,345	1,675	
	珠州市	令和6年1月10日～令和6年1月21日	4,600	2,686	1,168	746	
	羽咋市	令和6年1月4日～令和6年1月6日	749	139	268	342	
	かほく市	令和6年1月10日～令和6年1月12日	1,001	134	223	644	
	内灘町	令和6年1月17日～令和6年1月21日	1,679	432	436	811	
	志賀町	令和6年1月4日～令和6年1月6日	995	416	319	260	
	宝達志水町	令和6年1月12日	194	62	44	88	
	中能登町	令和6年1月4日～令和6年1月10日	3,448	451	952	2,045	
	穴水町	令和6年1月4日～令和6年1月18日	6,350	2,310	1,850	2,190	
能登町	令和6年1月8日～令和6年1月16日	2,459	744	741	974		
合計	1月4日～1月21日(延べ18日間)	31,600	12,615	8,790	10,195		
割合			39.9%	27.8%	32.3%		
富山県	令和6年1月3日～令和6年1月16日	3,364	619	1,212	1,533	324人	
新潟県	令和6年1月2日～令和6年1月11日	2,053	212	876	965	420人	
福井県	令和6年1月3日	38	6	14	18	—	
4県合計		37,055	13,452	10,892	12,711		
割合			36.3%	29.4%	34.3%		

被災建築物応急危険度判定の実施完了について(石川県 HP より)、応急危険度判定士派遣実績(富山県 HP より)、判定士の推移等と能登半島地震での活動状況について(新潟県 HP より)、全国被災建築物応急危険度判定協議会 応急危険度判定活動((一財)日本建築防災協会 HP より)

■応急危険度判定活動の様子 写真提供：神奈川県



【被災建築物の判定活動】



【判定拠点での打ち合わせ】



【判定活動エリアの確認】

特集2 能登半島地震派遣行政判定士へのインタビュー

令和6年1月1日に発生した能登半島地震では、応急危険度判定士の全国支援要請があり、神奈川県内からは神奈川県、横浜市、川崎市の3自治体の職員の「行政判定士」が派遣されました。

今回は神奈川県第1陣（令和6年1月15日～19日）として、職員の派遣を行った「神奈川県」と「横浜市」の職員を対象にグループインタビューを実施し、その経験を伺うことができました。



●取材にご協力いただいた職員の紹介●

（左側から右に向かって）
 横浜市派遣前準備作業に携わった職員 1名
 横浜市行政判定士 2名
 神奈川県行政判定士 1名
 ※上記の判定士3名はいずれも今回の被災地派遣が初めての判定活動となりました。

●取材チームの紹介●

（左側5番目から右に向かって）
 質問者：行政判定士3名
 （海老名市・綾瀬市・横浜市の職員）
 ※上記判定士3名は、いずれも被災地派遣経験なし
 書記：開成町職員
 写真撮影：横浜市職員

●被災地派遣の概要●

■派遣先 石川県輪島市

■派遣期間（※移動日を含む）と派遣人数

（神奈川県第1陣）

神奈川県3名、横浜市2名

令和6年1月15日（月）～19日（金）

（神奈川県第2陣）

神奈川県3名、川崎市2名

令和6年1月18日（木）～22日（月）

■判定実績

（件数）

		1月	17日	18日	19日	20日	21日	計
第1陣	神奈川県	33	20	—	—	—	—	53
	横浜市	26	20	—	—	—	—	46
第2陣	神奈川県	—	—	25	61	43	—	129
	川崎市	—	—	30	37	29	—	96
計		59	40	55	98	72	—	324

※判定活動初日の1/16は事前に大雪警報の予報があり、2次災害防止のためにやむを得ず、活動を中止としました。

※輪島市では、判定活動のためタブレットの支給がありました。

■被災地派遣までのタイムライン

令和6年1月1日 能登半島地震発生

10日 輪島市応急危険度判定活動開始

11日 神奈川県へ全国支援要請の照会があり、派遣可能人数と日時を回答

12日 神奈川県・横浜市・川崎市 記者発表

15日 神奈川県第1陣行政判定士輪島市へ出発

18日 神奈川県第2陣行政判定士輪島市へ出発

1. 判定士派遣前の事前準備について

正式な派遣要請から出発日まで、時間はとにかく短い。いつ派遣要請が来ても良いよう、被災地の状況・派遣の要件を想定することが大切！

Q.派遣前、準備段階で苦労したことは？

（神奈川県）準備段階で苦労したことは、「状況が刻一刻と変化していた」ことです。特に被害の大きかった奥能登エリアの情報がない中、1月11日（木）午後全国支援要請による神奈川県の派遣可能人数の照会がありました。日程を踏まえると第1陣は15日（月）に出発することになり、派遣までの平日の準備期間は1.5日しかなく、防災備品の準備、関連部署や派遣職員判定士との調整に苦労しました。

（横浜市）同じく、状況が刻一刻と変わっていたということです。1月4日、5日頃に6～8日の週末で派遣の可能性があるとの話がありましたが、石川県から広域支援要請を受けた中部圏ブロックが先に対応するという報告を受けました。その後、全国支援要請となり、11日（木）の午後に神奈川県より、車中泊の可能性がある事を踏まえた派遣可能人数の照会がありました。

当初は、有志で手を挙げていただいた派遣候補の行政判定士が6名おりましたが、「要請の条件が、車中泊でも対応できる経験や知識・装備等を持った職員の派遣であること」や、「被災地の雪道を運転しなければならない」ということでもう一度検討し、雪道運転など経験のある2名を派遣することになりました。

使用頻度の多い小物は、ウエストポーチや腰袋を活用。実際の判定作業の動きを想定して、事前準備すること。

Q.判定活動用に準備してよかったもの、準備しておけばよかったものはありますか？

(神奈川県) 現地での判定活動を終えた複数の判定士の感想から「思っていたより寒かった」というのは聞いていましたので、最悪の状況を想定して、防寒対策はしっかりすることができました。また、後日ウエストポーチが現地で非常に役立ったと聞いたので、腰袋のような収納できるものがあると便利かと思います。

判定作業中はピブスの着用により上着のポケットが使用できず、ペンの紛失が多かったので、道具をすぐ取り出せるようなものがあると作業効率が上がると思います。

(横浜市) よく使うものはいちいちリュックをおろして、開けて、取り出すことが面倒でした。しかも、雨の中での活動だったので、リュックのみの収納装備では作業がはかどらないと思います。

●判定活動で準備して（おけば）よかったもの●

(防寒対策)

指先を出せる防水性のある手袋

※輪島市での判定活動ではタブレットを使用

防寒作業用ブーツ+踏み抜き防止の中敷き

※一日中歩き回るので硬い安全靴は不向き

また、中敷きは樹脂製のものが歩きやすい

靴底用滑り止めスパイク

ネックウォーマー・イヤーマフ・アンダーウェア

魔法瓶

(小物収納)

ウエストポーチ

(その他)

支給されているピブス

※腕章は目立たないうえ、留めにくい

非常用食料

※被災地では食料の入手は出来ないと考えるべき

多少水に濡れていても貼れるガムテープ※

乾いたタオルや雑巾

※判定ステッカーを貼り付ける前に汚れや水滴をふき取る

厳冬期の提案

布ガムテープを使い捨てカイロで温める

防寒着のポケットから熱々の使い捨てカイロを取り出して、ガムテープを温めると糊が柔らかくなるため粘着性が増す期待大。

厳冬期&雨で判定ステッカーが貼れない！？
気象条件次第で布ガムテープはタイムロスに！

Q.ガムテープについて、現地での支給はなかったのでしょうか。

(横浜市) 支給はなく、普通の布ガムテープを持参しました。現地で使用する判定道具は全て持参しました。

(神奈川県) ガムテープはかなり使用すると聞いていたので一人3巻/日ずつ持参しました。

Q.「多少水に濡れていても貼れる※(左下一覧参照)」とありますが...

(横浜市) (雨だったため、) 接着面が結露してなかなか貼れない場面がありました。結露をふき取ってから貼り付けるのですが、ガムテープの糊が冷えて全くつかないこともありました。

(神奈川県) 接着面の水分をふき取る際にはタオル、雑巾を使用したが、それでも接着が困難でした。

Q.建材のプチルテープや強粘着のテープではどうでしょうか。

(神奈川県) 塗装面に粘着力の強いテープを使用すると判定用紙をはがす際に仕上げ材が剥がれてしまうと思います。対象建物の状態から判断し、今後、判定用紙をはがす可能性がある場合は塗装面など避けて貼り付ける等配慮が必要かと思います。

(横浜市) 判定結果が調査済(緑)、要注意(黄)のステッカーを貼るのには気を遣いました。その建物自体は健全だけど、隣の家が倒れてきて、(倒壊に巻き込まれる可能性があるため)危険(赤)になる場合がある。そういった場合は、その隣の建物の解体が済んだら、壊さなくて済むので貼り方にはすごく気を遣いました。建具など貼り付ける場所を選ぶこととなります。

布ガムテープの有用性を検証しました！！

布ガムテープ vs 水中用強粘着テープを検証するも、両者、寒さには勝てず...

取材後日、判定活動中の能登半島の気象条件を再現し、布ガムテープと水中でも貼れる強粘着テープを貼り付けできるか実験しました。

(実験内容)

それぞれのテープをアルミ面とガラス面に貼り付け、その強度を確認。

【条件1】常温・濡れた面

結果 布ガムテープ：弱いが付く

水中強粘着テープ：強めに付く

【条件2】低温・濡れた面(保冷材で冷やす)

テープは15分冷凍庫へ

結果 両テープ同程度の接着力ではがれやすい

(考察) テープの接着力に大きく影響があるのは、テープや接着面の温度にあり！

派遣要請前の事前準備や段取りがポイント
関連部署との調整も必要

Q.派遣前の事前準備について、アドバイスをお願いします。

(神奈川県) 派遣要請前からどのような手配が必要か段取りや役割分担をしっかりと決めておくことが大事です。仮に作成した派遣行程に基づき、各班のレンタカーの期間や営業所の指定場所、宿泊日程等を書き込んだ簡単な表を最初に作成し、表を確認しながら各手配を進めたので、後戻りが無く確実に手配が出来ました。

(横浜市) 熊本地震の際の派遣マニュアルに大まかな準備の手順、役割分担がデータとして残っていたので、準備はある程度スムーズにできました。こういった少しでも情報として使えるものを、後任の人に引き継げるのはとても良かったです。

Q.具体的には？

(横浜市) 費用が発生する調整はほとんど総務課が対応し、連携して素早く準備できました。公用車で現地に行ったのですが、スタッドレスタイヤの購入交換や雪かきの道具等、派遣職員の意見を聞きつつ準備を進めてくれたので不安はなく、とても助かりました。車中泊前提なのでバンタイプ(シエンタ)を準備した上で、寝袋や食料、充電関係、雪かき道具など装備が充実していたため、安心して行くことができたのですが、車の荷室と座席が一杯になり、もし実際に車中泊だったら寝るスペースの確保が大変だったと思います。



(横浜市) 出発前の荷物を詰め込む様子

2. 被災地派遣中の活動について

タブレットを使った判定活動と本部の工夫で調査時間の大幅な短縮に

Q.今回、輪島市の判定活動では、調査票の作成作業について、タブレットを導入し、1件あたりの調査時間の短縮を図れたと伺いました。タブレット判定の長所や短所、印象的だったことをお聞かせください。

(神奈川県) 長所は地図情報とリンクしているのが良かったです。(現マニュアルでは、記録用の写真を撮影するようになっていないが) 判定活動を終了してステッカーを貼ったあと記録用の写真を撮ります。その写真を判定調査票と一緒に地図情報とリンクさせることができ、同一建物としてデータを管理できる点は便利だと思います。また、入力はタッチパネルで選択式なので、とても簡単でした。

降雨時は、本部からフリーザーバッグを提供されましたが、タッチの反応が非常に悪く作業効率が落ちるため、袋から取り出して使用していました。

また、実施本部で用意した判定ステッカーの中央部(通常は無記載)には、あらかじめいくつかの判定結果の理由が記載されており、判定士は現地で該当する項目にチェックを記入するだけだったので、判定活動のスピード向上につながりました。

(横浜市) 全体を通して判定作業の短縮、本部に戻った後の報告や引き継ぎ作業が早かったのが良かったです。1日の最後の確認作業の際、タブレットで実際に判定した件数と本部に送付されたデータの件数が一致しているか確認するだけで済んだことで5分程度しかかからず、非常に便利でした。

(神奈川県) 本来であれば、判定活動後に判定結果の集計をしなければならないと思いますが、その作業のために受付本部に残る人員の必要がなく、すぐに帰路に就くことができました。

(横浜市) デメリットとしては、タブレット本体のバッテリーのもちが悪く、2時間くらいでなくなるようなので、予備のモバイルバッテリーを支給されました。本体に差して持ち歩くため持ちにくく、判定作業中の疲労は多少増したと思います。



タブレットを使用しながら判定活動している様子



タブレット充電中の様子

タブレット画面

※充電用コンセントと場所の確保は課題

被災地派遣は2人でなくてもよい
派遣先の状況により、人員追加を検討しては？

Q. 今回の判定活動で良かった点を教えてください。

(神奈川県) 今回の派遣では、宿泊先から実施本部(輪島市役所)までの**運転時間が長く、判定士の負担が大きかったために運転役として、1名追加派遣**することにしました。この3人目は運転交代要員のほか、判定活動状況の写真撮影や住民対応を担うことが可能になり、判定士の負担減となったとともに、判定活動に集中することができました。

(横浜市) 判定活動中に**在宅中の被災された方が屋外に出てこられることもあり、話をしたい方もいて、その際に一緒になって話を聞けました**。被災された方のお話を直接聞くことも大事だと思います。

(神奈川県) 職場では、過去被災地派遣を経験した職員からも「**現地では被災された方の声を聞いてほしい**」とも言われていました。

現地で怪我をしないために歩行には細心の注意を

Q. 今回の判定活動で苦労したことを教えてください。

(神奈川県) 路面は地割れが多く、**足が大きな亀裂に入ると怪我をする可能性があったため、歩行や車から降りる際には細心の注意を払いました**。また、積雪のある地区では、雪で隠れて路面の状況が分からないこともあると想定していたため、伸縮可能な棒で足元を確認しながら歩く準備もしていました。

Q. 現地ではトイレは少なかったようですが問題は？

(横浜市) 市役所のトイレが使用できました。あまり気温が下がらなかったことと、判定時間も短かったため、(現地の判定活動の時間は、4、5時間程度)特に不便は感じなかったです。

(神奈川県) ポータブルトイレは持参しましたが、使うことはありませんでした。実際に使うとなると**現地では隠れられるような場所も少なく、周辺の被災された方の目もある中での使用は難しいと感じました**。

3. 被災地派遣を経験し感じたこと

Q. 判定活動を終えて感想は？

(神奈川県) 厳冬期での寝袋持参、車中泊可能な判定士の照会があった時点でかなり厳しい条件であることは、覚悟しましたが、最悪の状況を想定しながら事前準備をし、派遣者全員が判定活動を終了して無事に帰宅できたことが一番うれしく、一安心しました。

(横浜市) 在宅中の被災された方に直接お話を聞くことができ、お話を聞けた方の中で、「**耐震改修工事をやっていたので建物が倒壊しなかった。雨漏りが少しあるくらい。**」とのことで、やはり耐震改修補助の意味があるのだと感じ、印象的でした。

●判定活動中の一日のスケジュール●

(神奈川県の場合)

- 4時30分 起床
- 5時30分 宿泊先出発
※大渋滞
- 8時30分 輪島市役所到着・受付
- 8時45分 輪島市役所出発
- 9時00分 判定活動場所到着
- 16時30分 現地判定活動終了
- 17時00分 輪島市役所到着・出発
(判定活動報告所要時間5分程度)
※大渋滞
- 20時30分 宿泊先到着
食事・TVにて現地情報収集
- 22時30分 就寝

※朝夕食共、時間が宿泊先の提供可能時間と合わなかったためカップラーメン等とし、昼食は非常食を車内で済ました。

車中泊を避けるため神奈川県が電話にて手配した相部屋の大型宿泊施設に、横浜市・川崎市の判定士も宿泊した。



道中及び輪島市内の道路状況



宿舎から輪島市役所までの経路

Q. 最後に被災地派遣未経験の応急危険度判定士へアドバイスをお願いします。

(神奈川県) 判定活動は少なからず危険が伴います。それでも自ら手を挙げて被災地へ赴き、被災された方の声も聞きながら判定活動を行い、無事に帰還し任務終了となった時には、人助けをしたような、他には無い達成感を味わえると思います。とても良い経験になるので、特に若い方に経験していただきたいと思っています。

(横浜市) 貴重な経験ができるので、未経験の方には行ってほしい。いろんな方に経験してほしいと思います。実際に経験がないと不安ですが、こういう機会があれば経験したほうが良いと思います。関東での震災が起こった際に慌てないためにも経験を積んだほうが良いと思います。

神奈川県・横浜市の職員の皆様、公務ご多忙のところ、本取材にご協力いただき誠にありがとうございました。

令和6年度コーディネーターシナリオ演習 及び応急危険度判定講習会の報告

1. コーディネーターシナリオ演習の報告

演習の意義

大規模地震発生時等に設置される神奈川県及び被災市町村の災害対策本部では、被害状況等諸情勢を迅速に把握し、応急対策を適時に適切に実施していく責務があります。

その応急対策の一つとして、「応急危険度判定活動」があり、その際に多くの判定士の受け入れや判定活動が円滑かつ効果的に行えるよう行政職員が「コーディネーター」として判定士のサポートをします。

「コーディネーター」は地震災害等発生時において、応急危険度判定実施本部と判定士の橋渡し役を果たし、具体的には、判定士受入準備や判定士が現場に赴く前の注意事項等の説明、判定士の結果報告の取りまとめを行い、判定士活動場面において中心的な役割を担っています。

協議会では、この「コーディネーター」が地震発生後の役割を体系的に習得するため、毎年、県内の行政職員を対象に、大規模地震を想定したシナリオによる演習を行い、判定活動実施の際の初動体制等の確立や充実強化を図っています。

今年度については、小田原市、大和市を被災想定市とし、シナリオ演習を2回実施しました。

演習の内容

被災想定市の特色に合わせ構成されたシナリオに基づく、説明及び報告の伝達演習(内容は下記の通り)

- ・地震発生直後から県災害対策本部への判定士の支援要請までの流れについて
- ・応急危険度判定実施計画の策定方法について
- ・コーディネーター業務の内容について
- ・日毎の判定終了後における判定結果の集計・取りまとめ方法及び報告の流れについて
- ・判定実施本部解散日の流れについて

2. 応急危険度判定講習会の報告

協議会では毎年、応急危険度判定講習会を県内各地で開催しています。

今年度は、新規認定・登録を希望される方及び判定技術向上のために受講を希望される方を対象としたWEBによる講習会を開催しました。

開催期間	開催方式	受講申込者数
令和6年11月15日(金) ～令和7年1月31日(金)	オンライン方式 (オンデマンド方式)	431人

お知らせ

1. 住所等に変更はないですか？

認定の有効期限をむかえる判定士の方には、新しい認定証をご自宅にお送りしていますが、不達になった場合は認定登録抹消になってしまいます。そのため、住所等の変更がある場合は、必ず事務局((一財)神奈川県建築安全協会)まで『応急危険度判定士認定申請事項変更届』(以下、「変更届」)の提出をお願いします。

「変更届」は、協議会ホームページの『変更届オンラインフォーム』から提出いただくか、協議会ホームページからダウンロードして郵送にて提出してください。

2. 勤務先に変更はないですか？

勤務先が変更となった場合には、緊急時の電話等による連絡に支障をきたしますので、「変更届」の提出をお願いします。また、住所・勤務先ともに神奈川県外となった場合には、転居先の都道府県に登録申請の事務手続きが必要となりますので、事務局((一財)神奈川県建築安全協会)までご連絡をお願いします。

3. Eメールアドレスの登録・更新のお願い

協議会では、判定士の方にEメールアドレスの登録・更新をお願いしております。

登録いただいたEメールアドレスは、登録者への情報提供や災害時の協力要請の連絡などに使用させていただきます。

登録は、下の二次元バーコード若しくは協議会ホームページの『変更届オンラインフォーム』から送信をお願いします。

「変更届オンラインフォーム」用
二次元バーコード



(ホームページからの登録)
協議会ホームページ→メニュー『応急危険度判定』→『手続きについて』→『登録情報変更／再交付等』をご確認いただき、「変更届オンラインフォーム」から登録

*ドメイン指定受信の設定をされている方は、Eメールアドレスの登録前に、ドメイン“@ka-singo.jp”を受信できるよう設定して下さい。

*協議会ホームページの『変更届オンラインフォーム』から送信いただくと、記入いただいたアドレス宛てに自動返信メールが送信されます。

自動返信メールが届かない場合には、メールアドレスが間違っていないか、ドメイン“@ka-singo.jp”からのメールを受信できるか等をご確認ください。

何回送信しても自動返信メールが届かない場合には、お手数ですが、事務局((一財)神奈川県建築安全協会)TEL:045-212-4511 までご連絡くださいますようお願いいたします。